

	Q4①コロナ対策に関してどんな点に苦労しましたか	Q4②コロナ対策で工夫された点	Q4③配置基準取得のために傾斜配置などを実施されている内容
1	患者の行動制限、フェーズ管理、ゾーニング、衛生物品の確保。	持ち込まない努力。	
2	職員への周知徹底、情報の共有。医療器材が購入し難くなった。面会の制限、最低限の面会再開に向けコロナリスクの確認。入院外来患者のコロナリスク確認。		
3	コロナ病棟の設置と受け入れに対する周知(心情面の考慮)日頃からの感染対策の重要性の周知。	感染管理の徹底。	
4		各部署が接しないよう更衣室、休憩時間等を変更。	
5	コロナ感染患者をどこへ隔離するか、ゾーニングができるか検討した。	個室をコロナ対策部屋とし一般病棟と分けした。	
6	特に透析を行っている患者はコロナ対応病院も受け入れ困難の状況のため、部屋の確保・準備。	感染対策の周知、感染症対応部屋にコンソール設置、PPE訓練、研修を急いで行った。	
7	コロナ対応マニュアル作成、外来待合室の椅子の配置。		
8	職員全員への周知、協力体制づくり、物資購入。	職種毎の役割分担の明確化、人から機器への移行。	
9	4月に非常勤スタッフが陽性となり、テレビ・新聞で報道され風評被害があった。	透析センターで感染予防対策、透析時間を変更、患者のベット間を2メートル以上取った。	
10	全職員、職種の教育。 物品単価の高騰。	全て居室単位での対応(風呂、活動等も含め)。	
11	アルコール消毒液、マスク、ペーパータオル等の物品の調達。	外来ラウンジ、診察待ち合い、職員エリアなど全てにおいてソーシャルディスタンスの確保、コロナについての研修会(全職員)ポスター掲示。	
12	(有熱者が)院内に入ってきてしまう。	有熱者は車で待機、車診察とし、全員受付で検温をした。	
13	患者との接触の仕方(ケアが中心のため) 口腔ケア、排泄ケア等。	病棟内で発生した場合を想定しチーム毎の業務の徹底。	
14	コロナ対策についての知識収集。	入院患者へコロナを持ち込まないための水際対策。	
15	情報収集、対策。	防護服不足時は手づくりした。	
16	情報が少なく当院にあった感染対策を実施するまで時間を要した。	コンテナを設置し発熱外来を実施。一部病室・救急外来にビニールカーテンを利用。	
17	院内のゾーニング、職員教育。	PPE着脱を統一するため動画の活用をした。	
18	アルコール製品とマスクの確保。	2時間に1回手が触れる場所の消毒と換気。	
19	看護師以外の職員に対するスタンダードプリコーションの徹底と指導に苦労した。	正面玄関に職員2名配置し検温と問診の実施(当番制)。	
20	入院患者、職員の感染予防等。	入院患者の面会禁止、職員の他県への外出等。	
21	外部から感染を持ち込まないようにする感染対策。	ショートステイ利用者のPCR検査実施。	
22	手指衛生、健康観察の周知徹底。	感染状況サインボード。	
23	スタッフ発熱時、PCR検査をしてもらえず復帰日数の判断に困った。	食堂のテーブル配置、ドアノブ等消毒、外部業者の立ち入り制限、行事の中止等。	
24	コロナ疑い患者への対応。	休床部屋を活用し、疑い患者を収容した。	
25	夜間帯入院時の発熱患者の対応。	時期を見て発熱外来対応に対して抗原検査を施行した。	

26	発熱や肺炎で入院する患者が、コロナ疑いとなりPCR検査結果がでるまで一般病棟の個室等でゾーニングしながらの対応が患者・スタッフ双方とも苦勞した。	連携している病院や大学病院から当院に派遣される医師から情報を得、水際対策をしっかりと実施した。	
27	スタッフの発熱時の対応や患者の発熱時に、不安ばかりが先に出て休暇をどのくらい取得させたいのか困った。		
28	職員の感染予防策の徹底。		
29	職員の意識改革、PPE等の準備、患者・家族への協力依頼。	OT・外来と病棟を別部屋、外来入り口を1ヶ所、健康チェック、入院患者の外出・外泊・面会禁止（タブレット面会）フェーズ分類と共有、感染委員会毎週開催、外来は密にならないように車内待機。	
30	帰国者・接触者外来の設置と運営。	不足していたマスクやアルコールの代用や工夫、備品管理。	帰国者・接触者外来、発熱外来への応援勤務（病棟から外来へ）
31	開院前のためなし		
32	面会制限を行った。	LINEを使って家族へ情報を流した。家族の携帯に写真や動画をとって渡した。	
33	感染対策に関わる物品の不足と調達。	患者に発症した場合のゾーニングの明確化、マニュアル作成。	
34	防護対策備品の調達、発生防止、水際対策、職員が感染しない対策。	病院正面での有熱者トリアージ、週1回部門代表者によるコロナ関係の情報共有、決定事項の周知。	
35	万が一の発生に備え病室準備やPPEの取扱い等、感染対策についての訓練や知識。	面会制限、外部業者、職員の検温と体調確認。三密にならないように外部への集合研修参加を減らしたり、休憩時間の分散。	
36	正面玄関の体温測定人員。	発熱外来の設置（コンテナ設置、動線）。	
37	感染関連消耗品の確保。面会制限による業務の拡大。	食堂（職員、利用者）へのパーティションの設置。密を避けるための職員更衣室の分散。	
38	マスク、手袋の不足。	入口で検温と問診の実施。入口を1ヶ所にした。待合室の椅子も密を避けるため座れる箇所を制限。車での待機。面会禁止。	
39	院内に持ち込ませないための対策。面会者の対応。職員の意識付け。	面会方法。発熱者の診察。	
40	コロナの情報が次々と出される中で、正しい情報から対策をたて職員に周知徹底することに苦勞した。	面会禁止にしていたが、IPADや陰圧式車いすを利用し面会時間を作ったり、洗濯物受け渡し場所を設置した。	
41	面会。洗濯物の受け渡し。職員教育。	WEB面会。外来患者ゾーニング。個室の確保など。	
42	疑い患者のPCR検査体制構築及び入院対応システム構築、人員配置、職員教育など。	疑い患者入院部屋設置と人員配置。入館者の検温と人員配置、職員健康管理。	
43	マスク、ガウン、手袋の確保。	来院者の体温測定、問診の徹底、原則面会禁止に対する説明。	
44	個人防護具の確保と職員の感染防止対策の周知と教育。	ある物で代用する。	
45	コロナウイルス感染症の周知。	面会、面談制限、パーティション、手洗い、マスクの厳守。	
46	面会制限の理解を終えるまでが大変だった。		
47	感染管理認定看護師不在や教育を受けた看護師が少ない中、日本看護協会や日本赤十字社から発信された内容でマニュアル作成した。	PCR検査ができない為コロナ疑い患者が入院した為、1看護単位新設した。	